

第58回日豪経済合同委員会会議開会式における山上大使祝辞

エディントン委員長、
三村委員長、
御列席の皆様、

第58回日豪経済合同委員会会議が開催されますことを、心からお祝い申し上げます。本会議のテーマにある通り日豪両国は大きな課題に直面しています。

新型コロナが猛威を振るう中、様々な工夫を重ねて事業を継続されている皆様に敬意を表します。このような中、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を無事開催することができ、両国アスリートの活躍がコロナ禍にある両国民に大きな勇気を与えてくれました。東京オリンピックは日豪両国が共に「スポーツ大国」であることを明らかに示してくれた機会でもあります。今後、ワクチン接種率が着実に向上するにつれコロナとともに生きることへ方向転換が進み、日豪間の往来も早期に再開することを、そして、来年の会議は対面で行えることを期待しています。

両国が位置するインド太平洋地域の安全保障環境は一層厳しさを増しています。こうした中、基本的価値と戦略的利益を共有する「特別な戦略的パートナー」である日豪両国間の連携は、昨年11月のモリソン首相の訪日、また本年6月の外務・防衛閣僚協議、いわゆる2+2を経て、益々深化しています。先月には、「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向け、初の対面での日豪米印4か国の首脳会議が開催されました。通商分野でも、日豪両国が主導したTPPの拡大やRCEPの発効に向けて緊密な連携がなされています。昨日誕生した岸田新総理が早期に豪州を訪問できるよう準備を進めてまいります。

来月にはCOP26が開かれるところ、日豪両政府は、6月に発表した「技術を通じた脱炭素化に関するパートナーシップ」に基づき、水素の開発・輸送を始めとして緊密に協力しております。脱炭素化の取組については、日豪両国は、二国間協力のみならず、アジアを中心とした途上国への支援も主導していきます。

それにつきましても、今日のような強固な日豪関係の基礎は、産業界の皆様が長年に渡り投資・取引を行う中で築き上げてこられた相互信頼により成り立っています。とりわけ日豪双方の経済委員会の皆様による御尽力に改めて感謝申し上げますとともに、引き続き御協力を頂きますよう、お願い申し上げます。

最後に、今回の日豪経済合同委員会会議の御成功、本日御出席の皆様の御健勝、そして日豪経済関係のますますの発展を心から祈念し、私の祝辞とさせていただきます。

(了)